

科目名	アルゴリズムⅡ					
科目名(英)	algorithmⅡ					
単位数	5	時間数	76時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科 1年					
授業概要	基本情報技術者試験のアルゴリズムの問題をとけるようにするために 基本的なアルゴリズムからSTEP UPしながら学んでいく					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					配列操作ができるようになる
	○					基本アルゴリズムを理解する
	○					文字列操作ができるようになる
	○					問題解決向きデータ構造が扱えるようになる
	○					数学的なアルゴリズムが理解できるようになる
テキスト・教材 参考図書	基本情報 STEP UP演習 アルゴリズム対策					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	配列操作 1次元配列の基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	配列操作 順位付け処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	配列操作 2次元配列の基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	配列操作 配列を利用した図形処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	配列操作 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	6	基本アルゴリズム 線形探索法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	基本アルゴリズム 二分探索法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	基本アルゴリズム 基本選択法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	基本アルゴリズム クイックソート			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	基本アルゴリズム 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	文字列操作 文字列の比較			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	文字列操作 文字列の転記			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	文字列操作 文字列の圧縮/復元			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	文字列操作 ボイヤ・ムーア法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	文字列操作 文字列操作 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	16	問題解決向きデータ構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	問題解決向きデータ構造 スタック			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	問題解決向きデータ構造 木構造(二分探索木)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	問題解決向きデータ構造 木構造(ヒープ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	問題解決向きデータ構造 ハッシュ法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	問題解決向きデータ構造 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	22	数学的アルゴリズム 数値と文字の変換			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	数学的アルゴリズム 実数計算			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	探索アルゴリズム BNF記法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	探索アルゴリズム 逆ポーランド記法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
26	探索アルゴリズム 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		

	27	その他のアルゴリズム ファイル処理	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	28	その他のアルゴリズム 法則性の発見	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	29	その他のアルゴリズム バックトラック法	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	30	その他のアルゴリズム 演習	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	31	基本情報過去問 H30 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	32	基本情報過去問 H30 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	33	基本情報過去問 H29 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	34	基本情報過去問 H29 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	35	基本情報過去問 H28 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	36	基本情報過去問 H28 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	37	基本情報過去問 H27 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	38	基本情報過去問 H27 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)模試を数回実施する。(3)基本情報技術者試験を定期試験扱いとする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(情報処理本試験)		micro				30%
	小テスト		○				50%
	宿題・レポート		○		◎		10%
	発表・作品						
	模試		◎				10
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	テクノロジー技術					
科目名(英)						
単位数	6	時間数	90時間	担当者	毛利俊司、堀伸二、松尾康徳	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科1年					
授業概要	基本情報技術者試験合格を目標に、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、セキュリティ、データベース、プログラム設計の分野(テクノロジー分野)の演習を行っていく。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				コンピュータのテクノロジー分野を学習し、基本情報午前免除試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報STEPUP演習 知識応用編 基本情報技術者試験問題集					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-1(セキュリティ分野)			午前問題の見直しをしておくこと	
	2	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-2(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	3	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-3(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	4	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-4(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	5	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-5(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	6	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-6(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	7	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-7(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	8	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-8(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	9	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-9(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	10	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-10(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	11	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-11(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	12	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-12(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	13	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-13(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	14	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-14(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	15	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-15(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	16	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-16(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	17	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-17(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	18	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-18(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	19	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-19(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	20	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-20(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	21	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	22	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	23	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	24	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	25	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	26	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	

	27	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	31	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	32	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	33	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	34	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	35	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	36	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	37	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	38	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	39	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	40	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	41	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	42	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	43	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	44	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	45	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)模擬試験(本番試験の形式)を3回実施する。(2)10月18日(日)の本試験を受験する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験3回	○	○				50%
	本試験	◎	◎				50%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	C言語Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	5	時間数	76時間	担当者	毛利 俊司	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科1年					
授業概要	代表的なプログラミングであるC言語を通して、プログラミングを学習することにより、基本情報技術者試験の午後問題のC言語を解けるようになる。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本情報の午後問題のC言語が解けるようになり、基本情報に合格する。
テキスト・教材 参考図書	やさしいC第5版(SBクリエイティブ) 基本情報STEP UP演習 C言語対策(インフォテックサーブ) 過去問題のプリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	C言語検定2級の復習-1			前期のプリントを復習しておくこと	
	2	C言語検定2級の復習-2			前期のプリントを復習しておくこと	
	3	C言語検定2級の復習-3			前期のプリントを復習しておくこと	
	4	STEPUP演習-1 配列操作(数値型の配列)			事前に問題集を確認しておくこと	
	5	STEPUP演習-2 配列操作(文字型の配列)			事前に問題集を確認しておくこと	
	6	STEPUP演習-3 ビット操作(論理演算)			事前に問題集を確認しておくこと	
	7	STEPUP演習-4 ビット操作(シフト演算、合成操作)			事前に問題集を確認しておくこと	
	8	STEPUP演習-5 数値処理(自然数の約数)			事前に問題集を確認しておくこと	
	9	STEPUP演習-6 数値処理(基数変換)-1			事前に問題集を確認しておくこと	
	10	STEPUP演習-7 数値処理(基数変換)-2			事前に問題集を確認しておくこと	
	11	STEPUP演習-8 ポイント確認(ポインタ)-1			事前に問題集を確認しておくこと	
	12	STEPUP演習-9 ポイント確認(ポインタ)-2			事前に問題集を確認しておくこと	
	13	STEPUP演習-10 ポイント確認(構造体)-1			事前に問題集を確認しておくこと	
	14	STEPUP演習-11 ポイント確認(構造体)-2			事前に問題集を確認しておくこと	
	15	STEPUP演習-12 探索処理(線形探索)			事前に問題集を確認しておくこと	
	16	STEPUP演習-13 探索処理(二分探索)			事前に問題集を確認しておくこと	
	17	STEPUP演習-14 ファイル処理(レコードの集計)			事前に問題集を確認しておくこと	
	18	STEPUP演習-15 文字列処理(文字列の比較検査)			事前に問題集を確認しておくこと	
	19	STEPUP演習-16 文字列処理(バイナリ変換)			事前に問題集を確認しておくこと	
	20	基本情報 過去問題対策(H30春問題)			前回までの授業の復習をしておくこと	
	21	基本情報 過去問題対策(H29秋問題)			前回の授業の問題の復習をしておくこと	
	22	基本情報 過去問題対策(H29春問題)			前回の授業の問題の復習をしておくこと	
	23	基本情報 過去問題対策(H28秋問題)			前回の授業の問題の復習をしておくこと	
24	基本情報 過去問題対策(H28春問題)			前回の授業の問題の復習をしておくこと		

	25	基本情報	過去問題対策(H27秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	26	基本情報	過去問題対策(H27春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	27	基本情報	過去問題対策(H26秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	28	基本情報	過去問題対策(H26春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	29	基本情報	過去問題対策(H25秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	30	基本情報	過去問題対策(H25春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	31	基本情報	過去問題対策(H24秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	32	基本情報	過去問題対策(H24春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	33	基本情報	過去問題対策(H23秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	34	基本情報	過去問題対策(H23春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	35	基本情報	過去問題対策(H22秋問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	36	基本情報	過去問題対策(H22春問題)	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	37	基本情報	受験に向けて自己学習	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
	38	基本情報	受験に向けて自己学習	前回の授業の問題の復習をしておくこと			
			※授業内容や過去問題を解く順番は、4月1日時点での予定				
評価方法	(1)10月20日(日)の本試験を受験する。(2)模擬試験(本番試験の形式)を3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験3回	○	○				50%
	本試験	◎	◎				50%
履修上の注意	きちんと復習を行い、授業の内容をしっかりと理解しておくこと。						

科目名	情報処理試験講座 I (春向) 応用情報技術者試験対策					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科1年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	R02春午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R02春午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	3	R02春午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	4	R02春午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	5	R02春午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	6	H31秋の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	7	H31秋の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	8	H31秋の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	9	H31秋の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	10	H31秋の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	11	ミニテスト(R01春H31秋の問題)			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	12	H31春の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	13	H31春の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	14	H31春の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	15	H31春の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	16	H31春の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	17	ミニテスト(H31春の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	18	R02春の午後問題の間1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	19	R02春の午後問題の間3を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	20	R02春の午後問題の間4を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	21	R02春の午後問題の間5を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	22	R02春の午後問題の間6を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	23	R02春の午後問題の間7を解き、解説-6			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	24	R02春の午後問題の間8を解き、解説-7			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	25	H31秋の午後問題の間1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
26	H31秋の午後問題の間3を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		

	27	H31秋の午後問題の問4を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	28	H31秋の午後問題の問5を解き、解説-4	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	29	H31秋の午後問題の問6を解き、解説-5	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	30	H31秋の午後問題の問7を解き、解説-6	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	ミニテスト	◎	◎				40%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験講座 I (春向) 基本情報技術者試験対策				
科目名(英)					
単位数	4	時間数	60	担当者	中西伸二、堀伸二
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当
対象学科・学年	システムエンジニア科1年				
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	目標				
	基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。				
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(R02年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	7	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	8	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	9	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	10	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	11	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	12	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	13	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	16	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	17	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	18	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	19	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	20	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	21	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	22	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	23	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	24	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	25	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
26	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	

	27	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	情報処理活用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	谷口 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	OAインストラクタとしてセミナーを担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・キータッチ2000の受験対策 ・MOS Excel2016の受験対策 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				キータッチ2000に合格する。MOS Excel2016に合格する。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・MOSExcel2016対策テキスト(FOM出版) ・対策プリント 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Excel復習 基本操作、データ入力			事前にWindowsの操作方法を自習しておくこと		
	2	Excel表作成①、データ入力			前回の授業の復習をしておくこと		
	3	Excel表作成②、データ入力・編集			前回の授業の復習をしておくこと		
	4	Excel表作成③、数式入力			前回の授業の復習をしておくこと		
	5	Excel表作成④、関数			前回の授業の復習をしておくこと		
	6	Excel表作成⑤、関数			前回の授業の復習をしておくこと		
	7	Excel表作成⑥、関数			前回の授業の復習をしておくこと		
	8	Excel表作成⑦、関数			前回の授業の復習をしておくこと		
	9	Excelデータベース機能①			前回の授業の復習をしておくこと		
	10	Excelデータベース機能②			前回の授業の復習をしておくこと		
	11	Excel 総合演習、キータッチ2000対策①			前回の授業の復習をしておくこと		
	12	Excel 総合演習、キータッチ2000対策②			前回の授業の復習をしておくこと		
	13	Excel 総合演習、キータッチ2000対策③			前回の授業の復習をしておくこと		
	14	Excel 総合演習、キータッチ2000対策④			前回の授業の復習をしておくこと		
	15	Excel 総合演習、キータッチ2000対策⑤			前回の授業の復習をしておくこと		
	※授業内容は、4月1日時点での復習						
評価方法	(1)MOSExcel2016を受験する。(2)キータッチ2000を受験する。(3)授業中の平常点(授業態度)を採点する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	MOS2016		◎				70%
	キータッチ2000		◎				20%
	平常点(授業態度)		○				10%
履修上の注意	前回の授業の復習をしっかりとっておくこと。						

科目名	C言語演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	國房 篤子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科1年						
授業概要	代表的なプログラミングであるC言語を通して、プログラミングを学習することにより、サーティファイC言語プログラミング検定1級を解けるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				サーティファイC言語プログラミング検定1級が解けるようになり、基本情報に合格する。	
テキスト・教材 参考図書	やさしいC第5版(SBクリエイティブ) 過去問題のプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	C言語検定2級の復習-1			前期のプリントを復習しておくこと		
	2	C言語検定2級の復習-2			前期のプリントを復習しておくこと		
	3	C言語検定2級の復習-3			前期のプリントを復習しておくこと		
	4	C言語検定1級の対策-1			前期のプリントを復習しておくこと		
	5	C言語検定1級の対策-2			前回のプリントを復習しておくこと		
	6	C言語検定1級の対策-3			前回のプリントを復習しておくこと		
	7	C言語検定1級の対策-4			前回のプリントを復習しておくこと		
	8	C言語検定1級の対策-5			前回のプリントを復習しておくこと		
	9	C言語検定1級の対策-6			前回のプリントを復習しておくこと		
	10	C言語検定1級の対策-7			前回のプリントを復習しておくこと		
	11	C言語検定1級の対策-8			前回のプリントを復習しておくこと		
	12	C言語検定1級の対策-9			前回のプリントを復習しておくこと		
	13	C言語検定1級の対策-10			前回のプリントを復習しておくこと		
	14	C言語検定1級の対策-11			前回のプリントを復習しておくこと		
	15	C言語検定1級の対策-12			前回のプリントを復習しておくこと		
	※授業内容や過去問題を解く順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)10月20日(日)の本試験を受験する。(2)模擬試験(本番試験の形式)を3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	1級対策の成果物	◎	◎				100%
履修上の注意	きちんと前回の復習を行い、授業の内容をしっかりと理解しておくこと。						

科目名	Oracle SQL I						
科目名(英)	Oracle SQL I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	松尾 康徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科・1年						
授業概要	Oracle Databaseは、メインフレームからパーソナルコンピュータまで幅広いプラットフォームをサポートしているデータベースである。IT業務においてもSQLの知識は必須とされ、中でもOracleに特化したSQL文法は業務において頻出である。本講義においては、リレーショナル・データベースとは何か、またそれと通信するSQLの中のSELECT文についての機能を学び、その習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Oracle10gの概要を理解し説明できる。	
	○					リレーショナル・データベースの概要を理解し説明できる。	
		○				SELECT文を使用して目的のデータを取得することができる。	
		○				関数を使用した高度なデータ取得を行うことができる。	
	○					結合・副問合せを使用した高度なデータ取得を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	Oracle Database 10g 入門 SQL基礎 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	イントロダクション - Oracle 10g / リレーショナル・データベース				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	SQLのSELECT文を使用したデータの取得 - 基本的なSELECT文				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	SQLのSELECT文を使用したデータの取得 - SQLとiSQL*Plus				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	データの制限およびソート - WHERE句、BETWEEN条件				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	データの制限およびソート - IN/LIKE/NULL条件/ORDER BY句				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	単一行関数を使用した出力のカスタマイズ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	グループ関数を使用した集計データのレポート -1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	グループ関数を使用した集計データのレポート -2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	複数の表のデータの表示 - 自然結合				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	複数の表のデータの表示 - 非等価結合・外部結合				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	複数の表のデータの表示 - デカルト積				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	副問合せを使用した問合せの解決 - 副問合せ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	副問合せを使用した問合せの解決 - 単一行副問合せ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	集合演算子の使用 -1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	集合演算子の使用 -2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Java基礎					
科目名(英)	Java basics					
単位数	4	時間数	60時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	IT系企業にて システム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科・1年					
授業概要	ソフトウェアの大規模化に伴い、より効率的な開発手法としてオブジェクト指向プログラミングが確立した。Javaはそのオブジェクト指向によるソフトウェア開発を可能とする仕様を有するプログラミング言語である。この授業を通して、Javaの基本的な仕様や文法を学び、簡易なプログラムの作成技術の習得を目指す。					
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					Javaの概要を理解し、その特徴を説明することができる。
	○					条件分岐や繰返し構文、配列を使用したプログラミングができる。
	○					メソッドを定義し、それを制御できる。
	○					Java™プログラミング能力認定試験の3級に合格する。
テキスト・教材 参考図書	2週間で Java SE Bronze の基礎が学べる本 (インプレス社) ※テキストは、4月1日時点での予定					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	Javaの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	変数、データ型、演算子			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	変数、データ型、演算子を使用したプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	条件分岐 - if文を使用した条件分岐			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	条件分岐 - switch文を使用した条件分岐			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	条件分岐を使用したプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	繰返し構文 - for文を使用した繰返し			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	繰返し構文 - while文を使用した繰返し			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	繰返し構文 - do-while文を使用した繰返し			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	繰返し構文を使用したプログラミング - for文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	繰返し構文を使用したプログラミング - while文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	配列			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	配列を使用したプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	配列 - 拡張for文			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	配列 - 拡張for文を使用したプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	メソッド - 処理をまとめる			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	メソッド - 定義と呼び出し			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	メソッドを使用したプログラミング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	Javaプログラミング基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	オブジェクト指向基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	クラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	クラスライブラリ - java.lang / java.io			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
23 ~ 30	Java™プログラミング能力認定試験対策			配布問題の復習をしっかりと行うこと		

	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で課題7問・小テストを3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(課題・ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	16	担当者	堀伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科1年						
授業概要	社会人として必要な一般教養のうち、ITエンジニアとして特に重要な数学、国語、社会の知識を習得する。数学は中学卒業レベルの全範囲、国語は高校卒業レベルの読み書きと、就職試験に頻出されることわざ、熟語、文章読解、社会は重要時事用語について学習する。						
授業形式	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					中学数学の全範囲(数式と計算、方程式、関数、図形)のうち、7割以上の範囲を問題を自力で解くことができるようになる。	
	○					就職試験頻出の漢字の読み書き、SPIレベルの文章読解のうち、7割以上を自力で正解を導くことができるようになる。	
	○					テキストの重要時事用語(約50語)について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	一般教養ミニテスト2020 実用数学検定3級過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	数学(計算問題) 国語(漢字読み書き)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	2	数学(方程式と関数) 国語(漢字読み書き、同音異義語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	3	数学(文章題) 国語(漢字読み書き、慣用句)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	4	数学(文章題) 国語(漢字読み書き) 社会(重要時事用語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	5	数学(文章題) 国語(漢字読み書き)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	6	数学(図形) 国語(漢字読み書き、慣用句)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	7	数学(図形) 国語(漢字読み書き、同音異義語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	8	数学(確率) 国語(漢字読み書き) 社会(重要時事用語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	9						
10							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト	◎	○				50%
履修上の注意							

科目名	ビジネス実務						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	16	担当者	青柳 七重		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専修学校で日本語教育を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科1年						
授業概要	B検ジョブパス3級の合格を目標とし、就職活動に必要な文章力(自己PR, 志望動機)や日本語の常識的な知識を身につけさせる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				B検ジョブパス3級の合格を目標とし、就職活動に必要な文章力を見につける	
テキスト・教材 参考図書	B検ジョブパス3級の過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	B検ジョブパス検定過去問(H30後期)			ビジネス検定の概要について調べておくこと。		
	2	B検ジョブパス検定過去問(H30前期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	3	B検ジョブパス検定過去問(H29後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	4	B検ジョブパス検定過去問(H29前期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	5	B検ジョブパス検定過去問(H28後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	6	B検ジョブパス検定過去問(H28前期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	7	B検ジョブパス検定過去問(H27後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	8	B検ジョブパス検定過去問(H27前期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
評価方法	(1)B検ジョブパス検定を受検する。(2授業中の過去問を。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	B検定ジョブパスの受検	◎	◎				80%
	授業中の過去問(平常点)	○	○				20%
履修上の注意	過去問題をしっかり理解することが大事ですので、必ず自宅で復習を行ってください。						

科目名	GCB I					
科目名(英)	Global Citizen Basic I					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	徳久 晶子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	システムエンジニア1年					
授業概要	「感謝と思いやり」をテーマに週2回のペースで全8コマの講義を受講。 当校で得た知識技能を実社会で存分に発揮すると同時に、人との関わり合いの中で円滑なコミュニケーションを図れることを目標とする。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				コミュニケーションをとる上での注意点を理解する。
				◎		実生活の中で実践する。
テキスト・教材 参考図書	GCB I 専用テキスト					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	2	「協働」の態度を持った学生生活			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～マナーの重要性			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	4	マナーの本質 I			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	5	マナーの本質 II			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	6	グローバルシティズンとしての日常			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	7	「感謝と思いやり」を振り返る			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	9	※学習分野の順番は4月1日時点での予定				
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	この講座では、点数による評価は行わない。 成績評価基準は、R評価のみとする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、科目単位を与えない。					